

WEBGUARDIAN V3.6.00 for Linux リリースノート

WEBGUARDIAN V3.5.00 for Linux から WEBGUARDIAN V3.6.00 for Linux において、以下の機能追加および修正／変更しました。

1. 機能追加

WEBGUARDIAN V3.5.00 から WEBGUARDIAN V3.6.00 へのバージョンアップにおいて、以下の機能を追加／改善しました。

(1) 警告機能の拡張

一度警告画面を表示した警告解除中の状態において、異なる警告ルールにマッチした場合にも再度警告画面を表示する設定が可能になりました。

(2) オーバーライド機能の拡張

一度オーバーライドコードが入力された解除中の状態において、異なるオーバーライドルールにマッチした場合にもオーバーライドコード入力画面を表示する設定が可能になりました。

(3) ソーシャルウェブ閲覧機能の追加

mixi や Twitter といったソーシャルネットワーキングサービスを WEBGUARDIAN のサービス利用状況から閲覧することが可能になりました。

(4) X-Forwarded-For リクエストヘッダー削除機能の追加

WEBGUARDIAN の下位プロキシから送信されてきたリクエストヘッダーに含まれる IP アドレスを削除した上で、上位プロキシへリクエスト送信することが可能になりました。

(5) コールドスタンバイ操作機能の追加

検査サーバーのアクティブ／スタンバイ構成において、管理画面上からアクティブ／スタンバイを切り替えることが可能になりました。

(6) テープからのリストア形式の改善

テープデバイスからのリストア形式を、ディスクデバイスからのリストア形式と同様にデータを追記する形式に改善しました。リストア領域に以前のリストアデータが存在する場合、リストア実行時には以前のデータを消去せず、そのままデータを追記することが可能となります。

(7) 適用パッチ番号表示の改善

該当パッケージに適用済みのパッチ番号を表示するように、管理画面の表示情報を改善しました。

(8) 通知メールに対するテストメールの改善

通知メールのテストメール内容を改善し、管理サーバー、検査サーバーのどちらのサーバーから送信されたテストメールか判別可能となるように改善しました。

(9) 複数セグメントでの運用機能改善

複数のセグメントを利用した場合でも、管理画面から検査サーバーを登録し、通信を行うことが可能となるよう改善しました。

(10) データ保存領域の NFS 対応

管理サーバーで設定する各種データ保存ディレクトリに NFS マウントしたディレクトリを設定することが可能になりました。対応する NFS バージョンは Version 3、Version 4 となります。NFS マウントディレクトリが設定可能となったデータ保存ディレクトリは、以下のとおりです。

- ・ウェブログ保存ディレクトリ
- ・バックアップ用ディレクトリ
- ・リストア用ディレクトリ
- ・監査データ保存ディレクトリ

2. 修正

WEBGUARDIAN V3.5.00 (GUARDIANSUITE V4.4.00) までに含まれる、以下の不具合を修正しました。

(1) MS Office 2007 ファイルのパスワード検査ができない不具合

Microsoft のセキュリティパッチが適用された環境で作成された Office 2007 のアプリケーションファイル(Excel、Word、PowerPoint)に対して、WEBGUARDIAN でのパスワードロック有無の検査ができず、「パスワードなし」と誤判定される不具合を修正しました。

対象となる Microsoft のセキュリティパッチは、以下のとおりです。

- ・Office 2007 Service Pack 2
- ・パッチ番号 KB969682 のパッチ(Excel 2007 用)
- ・パッチ番号 KB973593 のパッチ(Excel 2007 用)
- ・パッチ番号 KB969604 のパッチ(Word 2007 用)
- ・パッチ番号 KB957789 のパッチ(PowerPoint 2007 用)

(2) アクティブ／スタンバイ機にて同一の IP アドレスを使用した場合に収集済みデータを上書きする不具合

アクティブ機とスタンバイ機で同一の IP アドレスを設定した場合、ログ収集時にアーカイブデータ、ログデータの上書きが発生するという不具合を修正しました。

(3) セッションタイムアウト時の画面が正しく表示されない不具合

セッションタイムアウトの状態では画面操作を行うと、画面が正しく表示されない不具合を修正しました。

(4) 21 件目以降のグループに対して個別ダウンロードができない不具合

ポリシー設定のグループ登録において、21 件目以降となるグループに対して個別にダウンロードできないという不具合を修正しました。

3. 変更

WEBGUARDIAN V3.6.00 において以下の仕様を変更しました。

(1) 警告／オーバーライド管理用メモリの使用量について

警告／オーバーライド機能の拡張に伴い、管理用に確保するメモリの使用量を変更しました。管理用メモリサイズの見積方法は、以下の表を参考にしてください。

WEBGUARDIAN V3.6 の管理用メモリサイズの見積方法

設定内容		管理用メモリサイズの見積方法
異なるルールにマッチしたら画面を表示させる		
警告	オーバーライド	
×	×	(警告利用者数+オーバーライド利用者数)×100 バイト
○	×	(警告利用者数×警告ルール数+オーバーライド利用者数)×100 バイト
×	○	(警告利用者数+オーバーライド利用者数×オーバーライドルール数)×100 バイト
○	○	(警告利用者数×警告ルール数+オーバーライド利用者数×オーバーライドルール数)×100 バイト

4. システム要件

WEBGUARDIAN V3.6.00 for Linux を利用するには、以下の要件を満たしたハードウェア／ソフトウェアが必要となります。

【サーバ条件】

OS	RedHat Enterprise Linux AS/ES Version 4 RedHat Enterprise Linux Version 5 以下のパッケージがインストールされている必要があります。 ed、tcl、compat-db、compat-libstdc++、mt-st、 libstdc++-devel
CPU	上記 OS が動作する IA-32 (Pentium 以上)、Intel64 プロセッサ (Itanium2 は非対応)
ディスク容量	管理サーバー /opt 最低:1GB、推奨:※ /var 最低:100MB、推奨:1GB 検査サーバー /opt 最低:1GB、推奨:※ /var 最低:100MB、推奨:2GB 管理サーバー＋検査サーバー /opt 最低:1GB、推奨:※ /var 最低:100MB、推奨:2GB ※システム稼動後は各種データが出力／保管されますので、運用を考慮した空き容量を用意してください。

【管理用クライアント条件】

OS	Windows XP SP3、Windows Vista SP1/SP2、Windows 7
ウェブブラウザ	Internet Explorer 6、7、8
その他条件	ウェブブラウザの JavaScript が有効であること

以上